用

楽しむための河川敷

まつないがも、かせんしき 札内川の河川敷へ来て、水遊びや焼 き肉などピクニックを楽しむ人たち。

全国各地にさまざまな「川^{ボゥ・} があり、地域でおこなう川のそうじであったり、神事であったりもします。

十勝における川狩りとは、河原でおこなう炊事遠足の一種です。かつて、子ども同士で、あるいは学校や子供会で、なべと食材を持って河原へ行き、川で水をくんで炊事し、あるいは魚を釣って焼き、一日を楽しむ行事があったのです。

今でも、夏になれば河原に出かけ、焼き肉をして水遊びなどをする人たちがたくさんいます。 こうしたバーベキューピクニックも、広い意味での川狩りに入るでしょう。

十勝には、昔から河原で楽しむ文化があったのです。



十勝川、すずらん大橋下流のパークゴルフ場(帯広市)。

だれもが川を楽しめるように

河川敷とは、堤防と堤防の間にある平地のことです。

この場所は、洪水の時には増えた水を流す場所で、ふだん水はなくても、川の一部なのです。(p211)

そのため、かつて河川敷には、できるだけ人を入れない ようにしていました。

しかし、川はただ水が流れるだけではなく、近くに住む 人たちにとって、いこいの場所であり、広場でもあります。 そのため、「川狩り」といった文化もできてきたのです。

そこで今では、河川敷を整備し、だれもが楽しく使える 場所とするようになってきました。

散歩したり、水遊びしたり

公園として芝生広場がつくられ、簡単な遊具が置かれ ているところもあります。

また、広い河川敷があるところでは川も広く、小さな子どもたちは水遊びができません。そこで、水をくみ上げて浅くてゆるやかな流れをつくり出し、安全に水遊び

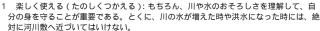
を楽しめるようにし た河川敷公園もあり ます。

親子連れの散歩や 学校の遠足などで、 利用されます。





(左)同じ場所。遠足にやってきた子どもたち。



語

イベント広場として

たくさんの人を集めておこなわれるイベントのためにも、 河川敷は利用されています。

とくに、夏をいろどる花火大会は、十勝川や利別川など、 毎年何カ所かの河川敷でおこなわれています。

あるいは、川をきれいにしようと、ボランティアでゴミ 拾いをするイベントも行われます。楽しむだけでなく、川 をより良くしていこうという人たちの思いと力が、河川敷 に集まります。





十勝川などでおこなわれる花火大会。

がせんしま 河川敷のゴミを拾って川をき れいにしようという「クリーン ウォークとかち in 札内川」。



札内川札内橋上流にあるスポーツグラウンド(幕別町)。 サッカー、 野球、ラグビーなど、さまざまなスポーツを楽しめる。

スポーツグラウンドとしての河川敷

河川敷には、野球やサッカー、ラグビーなど、広い場所を使 うスポーツのグラウンドがたくさんあります。

初夏から秋にかけて、小学生からおとなまで、さまざまな年 代の大会が開かれ、熱い戦いがくり広げられます。

また、パークゴルフ場も各市町村の河川敷にあります。

あるいは、夏にはマラソンやサイクリング、冬にはクロスカントリースキーなどといった、一人でできるスポーツをしにやって来る人たちもたくさんいます。

(お問い合わせは各市町村の教育委員会まで)

楽しく川を学ぶ、水辺の楽校

できるだけ自然を生かしながら、安全に 川に近づけるように整備されたところもあ ります。

「水辺の楽校」では、川と親しみ、川で楽しむ中で、川のことや自然のことを学んでもらおうと、遊歩道や階段などが整備されています。

十勝では、札内川の光南と大正(帯広市)、またあけがり まとあけがり まとあけまま) と べっがり まくべつおい 音更川(音更町) 途別川(幕別町)など、10の川に 11ヵ所あります。



札内川の光南地区水辺の楽校(帯広市)。



札内川の大正地区水辺の楽校(帯広市)。

² 水辺の楽校(みずべのがっこう): 十勝にある水辺の楽校は、上に書いてあるほかに、 十勝川(清水町)、帯広川(帯広市)、柏林台川(帯広市)、ウツベツ川(帯広市)、伏古 別川(帯広市)、売買川(帯広市)、利別川(池田町)にある。